

■令和6年度 市民協働事業評価シート(市記入分)

No.

1

事業名	外国人を支えるやさしいまち		
団体名	NPO法人こまえにほんごしえん・日本語スクール	担当課	政策室
事業目的	外国にルーツをもつ児童・生徒と保護者の日本語学習のサポート、地域交流事業、相談対応		
事業内容 (計画内容)	<ul style="list-style-type: none"> 生活言語習得支援・放課後支援・にほんごサロン やさしい日本語翻訳（学校の配布物等をやさしい日本語に翻訳） 多文化共生社会を担う人材の育成のための勉強会 公開講座 地域の他団体との協働活動 		
事業目標	日本語学習と交流活動を通して、多様性に富んだ地域社会の創出とすべての地域住民にやさしいまちづくりを進める。		
役割分担	団体：事業の企画・活動の周知・人材育成 市：予算と活動場所の確保・活動の周知等広報		

■協働の成果

協働までの プロセス	(どのように目的・課題を共有し協働に至ったか) 令和3年、外国人住民からの困りごと相談から市民活動支援センターこまえくぼの支援を受け、団体が立ち上がり、外国人の支援窓口の設置がないという市の課題と、活動場所と活動資金が必要な当該団体が、こまえくぼを仲介としてマッチングし、令和4年度に行政提案型市民協働事業、令和5年度に市民提案型市民協働事業として採択された。
	(どのように計画を構築したのか) 事業を実施するにあたり、活動場所の確保が必要であったため、相談しながら公民館や地域センター等、市の施設を利用し、定期的な日本語学習の場の確保を行った。その他、支援が必要な児童、生徒、教員へ団体の活動を知ってもらうためのチラシの内容の検討、配布等を協働して行った。
	(課題に対する協議・調整が円滑だったか) 予算が執行しにくいとの団体からの指摘から、予算の執行方法を検討し、改善を図った。事業の実施場所や、公開講座の内容、場所の確保、団体や事業の周知方法の検討等について、随時相談しながら事業を実施した。
協働体制について	(事業実施中の役割分担について) 海外ルーツの児童、生徒、その保護者等との関わりがあり、課題や必要な支援について熟知している団体が、事業の企画運営を行い、活動場所や活動費用について市がサポートすることで、安心で、安定した事業の実施ができています。
	(事業実施中の協働体制において課題や改善が必要だった点・解決方法) 団体の認知度が低く、支援が必要な外国籍の市民に認知されていないことから、市の関係部署との連絡調整を行うほか、ホームページへの掲載、チラシ等の広報活動の充実等について計画し、検討を進めている。また、支援に携わるメンバーのレベルアップや人員の確保も課題となっていることから、通訳ボランティアへの支援要請を検討している。
結果・振り返り	(協働までのプロセス上の課題・解決策について) 外国人住民が増えている中で、市に言語や、生活面での困りごとを相談する相談窓口が無い状況があり、団体の活動としては、活動場所と活動資金の確保が必要な状況があった。協働事業として取り組むことで、外国人の支援についてのノウハウを持っている団体が事業を企画、運営し、市が場所と活動資金を確保することで、外国人を支える事業の安定的な実施が可能となった。
	(行政又は団体と協働することにより得られた効果と課題について) 状況を熟知している団体と協働することで、支援が届いていない状況や支援方法の課題等が分かり、対応方法について協議することができている。団体の力を借りながら、市に散在する外国人に関する情報とサポート体制を集約していく必要がある。いずれは、市の事業としての運営、又は団体による自立した事業運営が必要。
総合評価	B 概ね期待どおりに進んだ (評価の理由)
	日本語の支援と活動場所の確保ができ、安定して事業の実施ができた。更に支援が必要な児童、生徒や外国人住民に団体と団体の活動が認知され、利用者が増えていく事が期待される。 教育委員会や関係部署と連携し、事業の取組を進める。

■令和6年度 市民協働事業評価シート(団体記入分)

No.

1

事業名	外国人を支えるやさしいまち		
団体名	NPO法人こまえにほんごしえん・日本語スクール	担当課	政策室
事業目的	外国にルーツをもつ児童・生徒と保護者の日本語学習のサポート、地域交流事業、相談対応		
事業内容 (計画内容)	<ul style="list-style-type: none"> 生活言語習得支援・放課後支援・にほんごサロン やさしい日本語翻訳(学校の配布物等をやさしい日本語に翻訳) 多文化共生社会を担う人材の育成のための勉強会 公開講座 地域の他団体との協働活動 		
事業目標	日本語学習と交流活動を通して、多様性に富んだ地域社会の創出とすべての地域住民にやさしいまちづくりを進める。		
役割分担	団体：事業の企画・活動の周知・人材育成 市：予算と活動場所の確保・活動の周知等広報		

■協働の成果

協働までのプロセス	(どのように目的・課題を共有し協働に至ったか) 外国人住民に対する地域における課題の掘り起こしをし、団体の持つリソースの活用を模索した。行政と団体それぞれのもつ長所を有効活用することが社会課題の解決に有効と考えた。
	(どのように計画を構築したのか) 活動と話し合い(打合せ)を通して、日本語学習機会と交流の場づくりの重要性、および安定した運営の必要性を共有(確認)することができた。また、団体の更なる知名度アップの必要性を認識した。
	(課題に対する協議・調整が円滑だったか) 行政と団体それぞれの役割を確実に実行し、円滑に計画の実施ができた。
協働体制について	(事業実施中の役割分担について) 事業の企画と実行を団体が、実施場所の確保や資金面のサポート等を市が行い、適切な情報共有と連携ができた。また市を通してほかの関連機関ともつながることができた。
	(事業実施中の協働体制において課題や改善が必要だった点・解決方法) 更なる団体の周知と、関係期間や類似団体との一層のつながりの強化が課題。それぞれのネットワークを生かし、協力関係を広げていく。
結果・振り返り	(協働までのプロセス上の課題・解決策について) 他団体主催のイベント参加によって、新たな人的つながりを作ることができた。課題や情報共有については、必要段階で都度整理、相談、検討をし、細やかに対処ができた。
	(協働により得られた効果と課題について) 課題解決の土台となるシステムが構築されつつあり、継続することによって課題解決のためのさらなるアプローチができると考える。
総合評価	A 期待された結果を得られた (評価の理由)
	活動計画はすべて実行することができ、さらに様々なつながりを生かし、活動の幅を広げることができた。支援者たちは日本語の支援者としてだけでなく、外国人からの相談に対応できる人材として確実にスキルアップしている。一方、新規支援者の獲得、新しい被支援者とのつながりを作ることはあまりできておらず引き続きの課題となっている。